

英語の unparticiple 構文について

小澤悦夫

1. 英語には、次の例に見られるような興味深い構文がある。

- (1) a. Segretti remained silent in the doorway...He had a friendly face,
though it was *unsmiling*.

(C. Bernstein & Bob Woodward: *All the President's Men*)

- b. Sir Charles was *unsuspecting*. (A. Christie, "The King of Clubs")

- c. She watched while two women, side by side but still *unspeaking*,
made their slow way up the hill toward the station.

(P.D. James: *The Skull Under the Skin*)

このように、現在分詞形に否定の接頭辞 un- が付いたと見られる構文を本稿では“unparticiple”と呼んでおくことにする。Participle（分詞）には present participle（現在分詞）と past participle（過去分詞）があり、unparticiple と呼べばどちらの分詞形も指すことになるが、過去分詞に否定の接頭辞 un- の付いた構文は Siegel (1973) が“unpassive”と呼んで既に興味深い分析をしているので、ここでは(1)に見られる構文を unparticiple と呼び、その意味的・統語的特長を考察したい。

Unparticiple を分析する際には Siegel (1973) の unpassive の分析が参考になるし、「現在」と「過去」との違いはあっても、どちらも「分詞」ということで、様々なヒントが得られる。まず、unpassive の特徴を Siegel (1973) に従っ

て確認しておく。

- (2) a. 補助動詞として “be/go” を伴なう。
 b. 動詞の過去分詞形に否定の接頭辞 un- が付く。
 c. 動作主を表わす前置詞句 (by + NP) は随意的。
 d. 最も重要な特徴として, unpassive に対応する能動文が存在しない。

(2d)については(3)のペアを参照されたい。

- (3) a. Antarctica is uninhabited (by man).
 b. *Man uninhabits Antarctica.

また, 否定の接頭辞 “un-” は, 次に見られるように, 「形容詞」「名詞」「副詞」「過去分詞」に付けて使われるが,

- (4) a. 形容詞: unkind, unhappy, ...
 b. 名詞: untruth, unkindness, ...
 c. 副詞: ungracefully, unendingly, ...
 d. 過去分詞: uncollected, uninhabited, ...

Siegel (1973, p.303) が述べているように, 何らかの派生段階で形容詞に付加されなければならないと思われる。

- (5) In every case, *un-* appears on a word which contains an adjective somewhere in its derivation...*un-* gets prefixed to adjectives only.

つまり, (4a-c)は以下の構造を持っているということである。

- (6) a. [un- [kind]_{ADJ}]_{ADJ}
 b. [[un- [true]_{ADJ}]_{ADJ} θ]_{NP}
 c. [[un- [graceful]_{ADJ}]_{ADJ} -ly]_{ADV}

(4d)は, 次の2つの構造が考えられる。

- (7) a. [[un- [inhabit]_V]_V -ed]_{ADJ}
 b. [un- [[inhabit]_V -ed]_{ADJ}]_{ADJ}

しかし(5)の原則からすれば(7b)が unpassive の構造だということは明らかだ

ろう。

2. では, unparticiple が, これまでどのような扱いかをされてきたかと言えば, ほとんど注意されずにきた, というしかない。例えば, Siegel (1973) では(4c) に unparticiple の一変種 (副詞形) の例 (unendingly) をあげて, -ly 語尾を除いた形 (unending) は, 「否定の接頭辞 un- + 形容詞 (ending)」から成ることを仄めかしているだけである。

Jespersen (1942=61, p.466) は, 否定の接頭辞 un- は, 動詞に付加される時は形容詞用法の分詞形にしか付かない (*Un-* is not used with vbs except with the adjectival participles: *unabridged*, *unfinished*; *undying*, *unwilling*, etc.) と簡潔に述べているのみである。また, Marchand (1969, p.202) は Jespersen (1942=61) と実質的には同じことを指摘しているだけである (The prefix (=un-) has always been freely attached to participial adjectives. Examples are *unbecoming*, *unbefitting*, *unending*, *unerring*, *unfalling*, *unflagging*, *unrelenting*, *untiring*, etc.)。

生成文法の領域でも詳しい分析はされていないようであり, 一例として Aronoff (1976, p.53) をみると, Siegel (1973) に従って, 否定の接頭辞 un- は形容詞のみに付加される, とした上で, 最も生産性の高い付加方式は動詞の現在分詞か過去分詞に付加されるものだと簡潔に述べているだけである (... the negative prefix *un#*, ... as Siegel (1971) has demonstrated, attaches only to adjectives. This prefix attaches most productively to deverbal adjectives, a class which includes present and past participles (*unflagging*, *unburied*) and words in deverbal *#able* (*unbearable*)).

3. 否定の接頭辞 un- が形容詞のみに付加されること, 動詞の現在分詞形は形容詞用法があること, の二点は一応認めてよいと思われるが, 「unparticiple は

否定の接頭辞 un- が動詞の現在分詞に付加されたものである」として済ませるには、細かく見るとその意味用法に様々な興味深い点がありすぎる。ここで、この構文にはどのような実例があるのかを分類して示しておく。(8)は“bare unparticiple”と仮に名づけておくもので、もちろん一番多く見られるが、細かな点についてはさらに考察する必要がある。(9)は“adverbial unparticiple”, つまり副詞用法である。(10)は限定用法 (“attributive unparticiple”) だが、数はかなり多い。より興味深いものに、実例は少ないが(11)に見られるように、補語をとる形もあることに注意されたい。

- (8) a. He didn't talk much, and was *uncomplaining*.

(Bill Ballinger: *The Tooth and the Nail*)

- b. McDonald was right, Vernon's instinct was *unerring*.

(Ian McEwan: *Amsterdam*)

- c. He stood an instant, *unmoving*, while the tense interest ebbed.

(M.D. Post: *The Methods of Uncle Abner*)

- (9) a. He drove *unthinkingly* on, not daring to look at the child.

(Peter Straub: *Ghost Story*)

- b. “Indeed!” said the Superintendent, *unbelievably*.

(Dorothy Sayers: *The Nine Tailors*)

- (10) a. Cordelia didn't doubt that Gorgan, faced with this *ungrieving* widow, would place her high on his list of suspects.

(P.D. James: *The Skull Under the Skin*)

- b. Both of them were ardent and *undiscriminating* cinema-goers.

(Robert Barnard: *Out of the Blackout*)

- (11) a. The right hated Nixon because he had abandoned the anti-Communist cause; the left was *unforgiving* of the former Nixon, and resentful because he turned out to be such a constructive diplo-

mat. (The New York Times obituary of Richard Nixon, 4/24/94)

- b. The waiter swooped, *uncomprehending* about them, gathering up the almost untouched plates of black olives and smoked ham.

(Christianna Brand: *Tour de Force*)

ここであげた例を見ているだけで色々な疑問が浮かんでくる。unseeing の意味は何か、not seeing anything (seeing nothing) と同じ意味なのか、使い方は同じなのか、unparticiple の意味は動詞によって違うのか変わらないのか、unparticiple は肯定形か否定形か、unparticiple は補語や修飾語をとれるのか、be 以外の補助動詞と共起できるのか、unspeaking は可能でも、その同義語の untalking/unsaying は可能か、等々の問題が考えられる。本稿でこれらの問題に全て答えが出せるかは分からないが、これまで余り注意を払われなかったこの構文についていささかなりと考察してみたい。

4. まず、unparticiple が形容詞として使われている点を確認しておく。否定の接頭辞 un- は形容詞だけに付加されるという原則(5)からして、unparticiple が形容詞であることに疑問の余地はないと思われるが、そのことは、形容詞がもっている一般的特徴の全てを全ての unparticiple が備えていることを意味するものではない。例えば、程度を表わす副詞的修飾語句で修飾されるとか、比較級・最上級の形式をとって比較構文で使われるという特徴は段階形容詞 (gradable adjective) のみに見られるものであり、unparticiple はこの種の形容詞ではないので、この点では極めて限定された振る舞いしかしない (この点については第10節参照)。

Unparticiple が形容詞として使われている証拠として一番はっきりしているのは次のような等位接続の例である。

- (12) a. He frowned into his tea as if reluctant to begin with. But, when he did his account was lucid, concise and *unhesitating*.

(P.D. James: *The Skull Under the Skin*)

b. He looked still puzzled and *uncomprehending*.

(Agatha Christie, “The King of Clubs”)

c. I have found through long experience that art experts can be ignorant, *unseeing*, arrogant, and foolish.

(Thomas Hoving: *False Impressions*)

d. The eyes were brown and *unflinching*.

(Ed McBain: *There Was A Little Girl*)

等位接続詞 (and/but/or) が結び付けている語句 (“A and B” の A と B) は、同じ資格 (性質) の語句でなければならないことはよく知られているが、(12a-d) の例を見れば、unparticiple が形容詞と等位接続されており、形容詞と見なされているのは明らかである。

意味の面から考えると、unparticiple は、その base となっている動詞の表わす動作・行為が100%欠如していることを示しており (この点については第6節参照)、この意味と矛盾しない副詞的修飾語句が共起できるのも unparticiple が形容詞である証拠と言える。

(13) a. What a nice child she was, I thought. So pleased with everything, so *unquestioning*, accepting all my suggestions without fuss or bother. (Bill Ballinger: *The Tooth and the Nail*)

b. I was convinced that he was entirely *unsuspecting*. (ibid.)

c. I gazed at him, impressed, but utterly *uncomprehending*.

(Agatha Christie, “The King of Clubs”)

d. So I know that in whatever photographs were taken of me at the time, my face will gaze back at you confident, a trifle cold, but basically *unknowing*. (Josephine Hart: *Damage*)

ここに見られる副詞的修飾語句 (so/utterly/entirely) は、何らかの動作・行

為が全く欠如していることを強調するために使われているか、そのことを確認するために使われている (basically) ことも明らかである。

どのような補助動詞と共起するかについてみれば (この点については第9節参照), be 以外で次の例がある。

- (14) a. She made no reply but her face remained *unbelieving*.

(Agatha Christie: *Peril at End House*)

- b. Jennifer looked *unbelieving*.

(Agatha Christie: *Cat Among the Pigeons*)

- c. What time was it? Nearly six. Well, it hadn't taken long, but at one time it had seemed *unending*. (J.J. Marric: *Giedon's Night*)

これらは典型的に五文型の第3構文 (S V C) に属する例であり, 補語として働いている unparticiple が形容詞であることも言うまでもない。

また, (15)に見られる限定用法 (attributive use) の例, および(16)に見られる -ly 語尾が付加された副詞形の例, からも unparticiple が形容詞としての働きをしていることがみてとれる。

- (15) a. We know the freak-show side of the agency (=CIA) that used damaging mind-control drugs on *unsuspecting* citizens.

(Time, 1/13/92)

- b. He stood on the top step of the stairway now, watching the scene below with *unblinking* fascination, his fists slowly knotting and unknotting at his side. (Stanley Ellin: *Star Light, Star Bright*)

- c. From this *unpromising* beginning has grown the most successful opera career of any composer within recent memory.

(Tim Page: *Music from the Road*)

- (16) a. Janney was staring *unwinkingly* at the floor.

(Ellery Queen: *The Siamese Twin Mystery*)

b. “Indeed!” said the Superintendent, *unbelievably*.

(Dorothy Sayers: *The Nine Tailors*)

c. What we do to other people when we act *unlovingly*!

(Raymond A. Moody, Jr.: *The Light Beyond*)

5. ここで一つの目安として *The Random House Dictionary of the English Language*, 2nd edition (以下 RH と略) が unparticiple をどのように扱っているかをみておく。見出し語 un- の欄外に unparticiple が列挙されているが, *unabandoning*, *unabasing* から始まって *unyearning*, *unyielding* まで, 総数でちょうど1000語ほどになる。これはきわめて大きな数と言ってよい。普段は目にしないような unparticiple が目白押しなのである。この1000語ほどの語は, RH の説明によれば, 基の動詞の意味と否定辞 un- から意味を類推できるものばかりということになる。この, 「意味を類推できる」という説明も, 必ずしも明らかではないが, unparticiple を un-V-ing と略記すれば, not V-ing の意味になるという趣旨だと思われる。しかし, それほど簡単に行かないことは後で見るとおりである。

見出し語 un- の説明として, 「この否定の接頭辞は, 形容詞およびその派生名詞・派生副詞に付加される (*unfair*, *unfairness*, *unfairly*)。名詞に付加されることもある (*unrest*, *unemployment*)」とある。そして, 特別な意味用法をもつ unparticiple は本文の見出し語として扱おう, としてあるが, その数はごく限られており, 全部をあげても次のものだけである (特別な意味の代表的なものをあげておく。※は, 基の動詞の意味と否定辞から類推できる意味 [not V-ing], つまり欄外の1000語と同じパターンのものである)。

- (17) a. unassuming: modest
 b. unavailing: ineffectual
 c. unbecoming: unattractive

- d. unbelieving: ※ / not believing, skeptical, not accepting any religious belief
- e. unbending: ※ / resolute
- f. unblinking: ※ / without displaying response
- g. unblushing: ※ / shameless
- h. uncompromising: ※ / absolute
- i. undying: deathless, unending
- j. unforgiving: ※ / not allowing for mistakes
- k. ungrudging: ※ / wholehearted
- l. unhesitating: ※ / unwavering
- m. unimposing: ※ / unimpressed
- n. uninviting: ※ / unpleasant
- o. unknowing: ※ / ignorant or unaware
- p. unmeaning: ※ / expressionless, insipid
- q. unpromising: unlikely to be favorable
- r. unremitting: not slackening, incessant
- s. unwitting: ※ / unintentional

特別な意味をもっているといっても、そのほとんどが基の動詞の意味と否定辞から類推できる意味をまづもっており、その比喩的転用として一般に使われる意味がプラスされたと考えられるものである。たとえば(17a-c)であれば、「きどる、役に立つ、似合う」といった意味から派生していることは明らかである。(17i, q, r)も同じで(それぞれ「死ぬ」「見込みがある」「軽減する」の意味から)、基の意味を想定しなければ「特別な」意味も生まれてこないだろう。逆に言えば、(17)にあげられていない unparticiple でも、適切に使いさえすれば比喩的転用は可能のものもあるはずである。次の例は比喩的転用として理解できるものだろう。もっとも実例は、文字通りの意味で解釈されるものが

圧倒的に多い。

(18) a. Bill Norton was on his way to the Cumberland Hospital in response to a telephone call (made while his wife was alive), and his face was wooden and *unmoving*. (Stephen King: ‘*Salem’s Lot*)

b. I have found through long experience that art experts can be ignorant, *unseeing*, arrogant, and foolish.

(Thomas Hoving: *False Impressions*)

c. The house was cold and *unwelcoming*.

(R.D. Wingfield: *Night Frost*)

(18a)は、“wooden”と合わせて「無表情な」様を表わしており、(18b)は、「理解力を欠いている (obtuse)」の意味であり、(18c)は、家が人を歓迎したりしなかったりするはずがないから、「人が住みたくなるような暖かい雰囲気を欠いている家」といったほどの意味だと分かるが、全て比喩的に使われていると言える。ここで、あらためて unparticiple の意味を考える必要が出てくるだろう。

6. そこで、次に unparticiple の意味を考えてみたい。まず以下の例を参照されたい。

(19) a. Annette was not happy; she was miserable in her school days.

b. Annette was not happy; she was ecstatic.

否定辞 not による否定表現は、単にその状況にはないことを述べているに過ぎないので、(19a)のように、“not happy” だと言えば “unhappy” だと推論することが多いとしても、これは「誘われた推論 (invited inference)」であり、(19b)の可能性を排除するものではない。同様に、(20a)も文法的であるが、(20b)は非文法的である。

(20) a. Bruce was not smiling; he was beaming.

b. *Bruce was unsmiling; he was beaming.

Siegel (1973, p.307) が, “not complicated” と “uncomplicated” を例にとって述べているのも同じ趣旨である (“Observe, for example, that *not complicated* admits interpretation of a greater range of complication than *uncomplicated*.” ただし, 続けて “something which is not complicated is necessarily uncomplicated, but the reverse is not true.” と言っているのは趣旨が逆である)。

小沢 (1990) で unpassive の意味について述べたと同じく, unparticiple は「ある状態の欠如を主張 (assert) している肯定形平叙文」だと考えられる。この構文が否定文ではなく肯定文であることは次の付加疑問文などからも分かる。

- (21) a. ?Pamela was unsmiling, was she?
 b. Pamela was unsmiling, wasn't she?
- (22) a. Ben was unsmiling, and so was Luke.
 b. *Ben was unsmiling, and neither was Luke.
- (23) a. ?Mary was not smiling, and Tom was unsmiling, too.
 b. *?Mary was not smiling, and Tom was unsmiling, either.

(21-23) の文法性判断はインフォーマントによるが, (21b) と (22a) が完全に文法的であることは, unparticiple が文法的には肯定文であることを示している。付加疑問文では, 主文が肯定形でも付加部分も肯定形の場合もあるので (21a) は完全に非文法的になっていないと思われる (不自然ではある)。(23a) がいくらか不自然なのは, “and” の前後 (等位項) が同じ構文ではないので不自然さが生じるためである。いずれにしても, (22b) と (23b) がまったく非文法的なのに較べれば unparticiple が肯定形であることに疑問の余地はないと思われる。

この構文の基本的意味としては, 進行形か単純形か, という点になると込み入った問題が出てくる。次の例を参照されたい。

- (24) a. He was unseeing. = *He was seeing nothing.

- b. He was unseeing. = He saw nothing.
- (25) a. She was unsmiling. = *She was smiling at nothing (no one).
 b. She was unsmiling. = *She smiled at nothing (no one).
 c. She was unsmiling. ≠ She was not smiling.

ごく当たり前の“unseeing/unsmiling”の意味を考えようとする、単に進行形か単純形か、といった区別だけが問題になるわけではない。インフォーマントによれば、(24a) (25a, b)のパラフレーズは非文法的である。(24b)のそれは文法的であり、unparticipleの意味にもなりうるが、むしろ、“He understood nothing.”の意味に解釈するのが普通だとのことである。また、(25c)は、“She was a person who did not smile.”という性格描写ととるべきだという。

次の例も付け加えておく。

- (26) a. Kennedy’s face was *unsmiling*. (Mario Puzo: *The Fourth K*)
 b. ?Kennedy’s face was not smiling.
 c. Kennedy was not smiling.
- (27) a. I have found through long experience that art experts can be ignorant, *unseeing*, arrogant, and foolish.
 (Thomas Hoving: *False Impressions*)
 b. ?...art experts do not have an eye for paintings.
 c. ...art experts can be obtuse.

(26a)はKennedyの外面的特長や彼のイメージ(特にテレビ映りといった)に焦点をおく表現だが、(26b)は不自然であり、(26c)の方がより自然な表現と言える。また(27a)の意味は、文字通りに「ものを見ることができない」の意味ではもちろんなく、(27b)の意味にもならない。(27a)の他の形容詞は特に美術と関係があるものではなく、一般的な性質を表わしているものだからである。ここでの“unseeing”は、「一般的な理解力を欠いている」の意味で解釈すべきものであり、パラフレーズとしては(27c)などがふさわしい。

これらの例からも分かるように、unparticiple の目的語は明示することが難しいようだ。特に「何を」ということが言いにくいのである。そして、文脈に応じて微妙に意味が変わりうるとも言える。次の例も参照されたい。

- (28) a. (=1b) Sir Charles was *unsuspecting*.
 b. Sir Charles was not suspecting anything.
 c. Sir Charles did not suspect anything.
 d. Sir Charles was a person who did not suspect anything (by nature).

この unparticiple の意味も文脈に応じて変わる例である。もし、誰かが Sir Charles に対してこっそり謀議をめぐらしていたとすれば、(28a)または(28b)のいずれもほぼ同じ意味で使われうる。つまり進行形と単純形の違いはないことになる。また、そのような謀議が存在しない場合は(28c)の意味が(いくらか不自然ではあるが)可能である。次の例も付け加えておく。

- (29) a. (=16c) What we do to other people when we act *unlovingly*?
 b. ?...we act without loving anyone.
 c. ...we act without love.

この場合も(29b)は不自然で、(29c)の方が自然な解釈になるが、そもそも“to act unlovingly”という表現自体が(29c)よりも強い不人情さや残酷さを表わしている。つまり、「誰を愛するのか」とか「どんな愛し方」をするのかといったことが問題なのではなく、「愛という行為における薄情さ」を前面に出した場合の表現だということである。

また、unparticiple が進行形の意味なのか、単純形の意味なのかも(24)(25)(28)でも見る通り、必ずしもはっきりしない。次の例も同じである。

- (30) a. (=8a) He didn't talk much, and was *uncomplaining*.
 b. He didn't talk much, and was not complaining.
 c. He didn't talk much, and did not complain.

- d. He was the type of person who didn't talk much, and did not complain (much).

これは、ある時点での行為を表わすというより、彼の性質を表わしているとする方がよさそうであり、(30d)が、ほぼその意味を表わしている。Unparticiple が分詞形だからといって、必ずしも進行中の行為を意味するとは言えない例になる。

このような点を考えてみると、unparticiple の意味としては、[un-V-ing] と表記したとして、基本的な意味は [not V-ing] であり、自動詞の場合はもちろん目的語は（隠れた形でも）存在しないが、他動詞の場合も明確な目的語は存在せず、あくまで「V-ing で表わされる行為・状態が存在しないことを概念的に、かつ肯定的に表現している」とするのがよいように思われる。もし、具体的な目的語を表現したいのであれば別の構文がいくらでも可能だということからも、unparticiple が特別な意味をもっていることを推定できる。逆に言えば、unparticiple を利用するときは、他動詞の場合は目的語を特定する必要がない、ということでもある。

7. 次に、限定用法と叙述用法の違いについてみておきたい。一般に、形容詞の限定用法 (attributive use) は「恒常的状态」を表わし、叙述用法 (predicative use) は「一時的状態」を表わすとされている (安藤 2005, pp.482-84)。これは一般的には正しい観察だとしても、安藤 (2005, p.484) は次の例もあげて、

- (31) He was a happy man that summer.

この場合は、“that summer” という修飾語で期間を限定されているために、限定用法でも一時的な状態を表わす、と説明している。Unparticiple の具体例を見ると、どちらの用法もありうるように思われる。

- (32) No one answered; their eyes were trained upon his *unsmiling* lips.

(Ellery Queen: *The Siamese Twin Mystery*)

- (33) a. Any young man concerned with artistic matters risked the label “sissy” in those *unforgiving, uncomprehending* days.

(Humphrey Burton: *Leonard Bernstein*)

- b. Sunlight glanced through closed windows, dust beams silently hovered on the *unmoving* air. (Ed McBain: *Doll*)

- (34) a. Hall’s bite is his pen – personally his *unoffending* manner belies his picture of himself as a ‘stormy petrel’ of linguists.

(Dwight Bolinger, “First Person, Not Singular”)

- b. Ah, that you, Spencer? Oh, it’s the *unerring* Miss Warren, is it?

(Philip Macdonald: *The Rasp*)

(32)は前後の文脈がないので、このときだけの振る舞いか、それともいつもの態度かはわからない。つまり、どちらの意味にも使えるということである。

(33a)は「当時は」とあり、(33b)は、空気（大気）は動くこともあれば（この方が自然）動かない（ように感じる）こともあり、この場合はたまたま動かない、という意味なので、どちらも一時的な状態を指すことは明らかである。

(34a, b)が恒常的な状態なのも文脈から明らかだろう。別の例をあげて確認しておきたい。

- (35) a. The combination of his *unquestioning* belief in his own power to dictate his life, and the tall, heavy body in which this will resided, made him a most formidable man. (Josephine Hart: *Damage*)

- b. Thanks to Doug McKell for his *untiring* assistance in putting this manuscript together.

(Elisabeth Kubler-Ross: *Death, The Final Stage of Growth*)

- c. There is nothing like just indignation for fostering *unreasoning* hate. (Christianna Brand: *Green for Danger*)

- (36) a. On the opposite escalator, the one descending, his *unbelieving*

eyes saw a vision from the past. A woman of full and flamboyant form. (Agatha Christie: *The Labors of Hercules*)

- b. Lewis took out the sheet of paper and read with blind, blank, *uncomprehending* disbelief the one line answer Miss Coleby had written to Morse's question.

(Colin Dexter: *Last Bus to Woodstock*)

- c. The disconnected humless electrical appliances: the stopped *undripping* water taps; the *unringing* telephone; the stopped *unticking* clock;...

(Ed McBain: *Doll*)

(35a-c)は、それぞれ、いつもそのような状態であることを意味することは十分に可能である。また、言うまでもなく、(36a)では、「過去からの亡霊を見たときに信じられない思いをした」のであり、(36b)では、「手紙の中味を読んだときに理解できなかった」のであり、また(36c)では、「電源が切られていたので音を立てない電気器具の他に、水は止められており、電話は切られており、時計は電池がなくなったかして使えなくなっていた」の意味であるから、それらが一時的な状態であることは明らかである。つまり、適切な文脈さえあれば、限定用法でも一時的な状態を表わすことは十分に可能ということであり、unparticiple では特にこの意味用法が多く見られるように思う。

8. 次に、unparticiple 構文が可能な動詞と不可能な動詞の違いをみておく。次の文は非文法的である。

(37) a. *Joe was unstudying.

b. *There are lot of unstudying students in the dorm.

なぜ、これまで見てきたような多くの unparticiple があるのに、(37)が不可能なのか。これは、(37b)の限定用法が不可能だという点、つまり形容詞としての働きが認められない、というところにその理由があると思われる。つまり、

否定の接頭辞 un- は形容詞だけにしか付加されない, という性質を思い起こせば, “studying” は形容詞としては働いていないために否定の接頭辞 un- を付加できない, つまり unparticiple にはなりえない, ということが分かる (そのようなことを形容詞を使って言いたければ, “studious” という語もある)。

ただし, 実際にはめったに使われない語を含む unparticiple の場合は微妙な判断の違いが生じるのもやむをえないだろう。たとえば次の空欄を置いた文に様々な unparticiple を入れた場合の文法性の判断には個人差などがあると予想される。

(38) Tom was _____ .

RH とインフォーマントの判断を一覧として次に載せておく。

(39)	RH	インフォーマント
a. undoubting	○	○
b. unlaughing	○	×
c. unmeaning	○	×
d. unrecognizing	○	×
e. unpitching	×	×
f. unrunning	×	×
g. unsaying	×	×
h. unsignifying	○	×
i. untalking	○	×
j. untrusting	○	○
k. ununderstanding	×	×

同じ判断基準 (たとえば(38)) を使っているわけではないこと, RH は文法的に可能であれば unparticiple としているらしいこと, (38)には適切な文脈が与えられていないこと, などから判断に微妙な違いがでることは避けられないだろう。

個々の動詞の性質も関わってくると思われるが、(39)の例について、二三付け加えておく。(39b)には、“laughing policeman”, (39c)には、“meaning look”, (39i)には、“talking book/talking head”などの例が見られるところから、unparticipleとしての用法も可能だと推定される。(39f)はどちらも非文法的とされているが、辞書には、“running water”が形容詞の例として載っているのので、文脈次第ではunparticipleとしての用法も可能かもしれないが、(39e, g)とともにその意味からして極めて不自然になると考えられる。

8. 大部分のunparticipleは目的語を必要としないが、少数の例外が見られる。既に(11a, b)で出しておいたが、再掲する。

(40) a. (=11a) The right hated Nixon because he had abandoned the anti-Communist cause; the left was *unforgiving* of the former Nixon, and resentful because he turned out to be such a constructive diplomat.

b. (=11b) The waiter swooped, *uncomprehending* about them, gathering up the almost untouched plates of black olives and smoked ham.

Unparticipleは特定の目的語をとらない構文だ、と先に述べたが、これらは明らかに目的語(補語)をもっている(ただし、インフォーマントによれば(40b)は不自然とのことであるが。この文は50年も前に書かれたものであり、イギリス人によることも関係があるかも知れない。インフォーマントはアメリカ人)。次の例も参照されたい。

(41) a. Fame in America is *unforgiving*. And she (=Hillary Clinton) had to grow comfortable in the spotlight – something very few people can do without having a nervous breakdown or drinking or popping pills. (Erica Jong, “Hillary vs. the Patriarchy” The New

York Times, 2/4/08)

- b. Fame in America is ruthless.
- c. *Fame in America forgives no one.

この “unforgiving” は文字通りの意味というのではなく, “ruthless, not allowing for mistakes” といった比喩的意味で使われている。(17)で列挙されている語の一つである。(41c)が成り立たないことから, 人間などを表わす目的語が隠れているわけではないことも明らかである。そもそも人間が名声に許してもらう必要はない。(41b)は, 「名声を得れば, 常に細かなことまで厳しく監視される」という状況を意味しており, “unforgiving” はまさにこの意味で使われている。

このように, 文字通りの意味(目的語は不定として)と比喩的な意味の両方で使われる可能性のある unparticiple は, はっきりと文字通りの意味で使われるときには(40a)のように補語をとって意味を明確にするのではないかと思われる。次の例も参考になる。

- (42) a. ?John fell asleep *unknowing of* the secret pact that his father had made.
- b. ??Even the Secretary of State was *unknowing of* the secret agreement.
- (43) a. John was *uncaring of* others.
- b. *John was *unthinking about/of* anything important.
- c. *John was *unprotesting of* any advice.
- d. The right is still *unbelieving of* McCain’s claim to being a bona fide conservative.
- e. *The two countries were *uncompromising of* the conflict.
- f. The master was *ungrudging of* his disciple’s success.

(42a-b)と(43a-f)で問題なく文法的なものは, (43a, d, f)であり, (43b, c, e)

は、はっきり不自然である。(42a-b)の意味を表わしたければ“unaware, ignorant”などの適切な形容詞がある。これらの unparticiple を観察すると、“uncaring/unbelieving/ungrudging”は比喩的な意味用法が見られるので(それぞれ「何も気にしない性格」「何も信用しない性格」「恨みを抱かないカラッとした性格」等を表わす), 文字通りの意味を表わすために補語をとっているのに対し、不自然とされる unparticiple は比喩的な意味にはならない(もしくはなりにくい)ことが分かる。文法性の判断の違いは矢張りこのような違いによると思われる。Unparticiple が目的語をとる必要があるときは補語をとることもありうる, と考えることはできるが, そのような例はあくまで例外的(慣用的なものに限られる)である。もし目的語を表わしたかったら別の構文を使えばいいからである。

9. 補助動詞として be 以外の動詞を unparticiple がとれるかも考えておく。次の例を参照されたい。

(44) a. *She went *unsmiling*.

b. *She kept *unsmiling*.

c. She remained *unsmiling*.

(45) a. Everybody was having a good time at the party. They were all chatting together and laughing, but Mary looked depressed. When I first saw her, her lips were clenched together, and she *was/*kept/*went/remained *unsmiling* throughout the evening.

b. Everybody believed that Apollo 11 had landed on the moon, but Jerry was/*kept/*went/remained *unbelieving*. She insisted that the government was manipulating the media.

この構文で go が使えない理由を考えると、Siegel (1973, p.313) が David Perlmutter の説として紹介している説明が参考になる。それによれば、

この用法の *go* は、その補語が表わす意味は、その反対の状況が通常のものに限られる場合にのみ使われる (...the complement of noninchoative *go* must be something the opposite of which is usually presupposed to be the normal case.) ということになり、次の例があがっている。

(46) a. The elephant went trunkless.

b. *I went trunkless.

人間が象のような牙をもっていることはありえないから (46b) は非文法的になるということである。これにならえば、いつも人間が笑っていたり、いつも何でも信じているという状況は通常考えられないから、(44a) と (45a, b) の *went* は非文法的になると言えるだろう。

この構文で *keep* が非文法的で、*remain* が文法的なのは、unparticiple の意味はあくまで「行為の完全な欠如」なので、*keep* という意図的な動詞と折り合わないためであり、*remain* という受動的な動詞とは折り合えるからである。(45a) のように「夜通しずっと」という継続期間をはっきり表現している場合は “*remain*” がふさわしくなり、(45b) のように、特に継続期間を示していない場合は “*be/remain*” のいずれも文法的になるのも、それぞれの動詞の性質に一致した振る舞いである。

10. 最後に比較構文に使われる unparticiple について簡単に付け加えておく。そもそも、何もないことを意味する unparticiple を比較構文で使うこと自体がそれほど自然でないことは予想される場所である。次の例を参照されたい。

(47) a. *Robert didn't talk much, and was *uncomplaining*; Ted talked more, but he was more *uncomplaining*.

b. Robert spoke little and was *uncomplaining*; Ted spoke less and was even more *uncomplaining*.

(48) Tom was more *unsuspecting* than John; Tom believed everything we

told him, but John was a little more suspecting.

(47a)がおかしくて(47b)がOKなのは、andで接続される等位項が(47b)では同じ構造をしているからであり、また“even”という副詞で比較の意味をよりはっきりさせているからでもある。(48)で、unparticipleを比較構文で使うためには周到な文脈を必要とすることも理解されるだろう。この場合は「Tomの他人を疑わない人のよさ」を意味しているのである。次の例も同じことが言える。

(49) Mrs. Chanty's eyes became even more *unsmiling*.

(Robert Macdonald: *The Blue Hamer*)

これは、「彼女の猜疑心がさらにふくらんだ」とでもいう比喩的な意味で使われていることに注意されたい。単に「笑っていない」ことだけを文字通りに意味するのであれば非文法的になるのも言うまでもない。

最後にunparticipleの副詞用法についても一言だけ付け加えておく。先にあげた例を含めてつぎの例を参照されたい。

(50) a. (=16a) Janney was staring *unwinkingly* at the floor.

b. (=16b) “Indeed!” said the Superintendent, *unbelievably*.

インフォーマントによれば、これらは副詞形語尾 -ly のない形の方が自然とのことである。つまり次のようになる。

(51) a. Janney was staring at the floor, *unwinking*.

b. “Indeed!” said the Superintendent, *unbelieving*.

この違いは、(50)の方が行為を強調している（この場合は行為の欠如を強調）しているのに対し、(51)は心的状態を強調しているところにある。

※本稿の例文チェックを東洋大学教授の Dr. Charles Cabell にお願ひした。記して感謝したい。

References

- Aronoff, Mark (1976), *Word Formation in Generative Grammar* (Cambridge, MA.: MIT Press)
- Jespersen, Otto (1942 = 1961), *A Modern English Grammar VI* (London: George Allen & Unwin)
- Marchnad, Hans (1969), *The Categories and Types of Present-Day Word-Formation* (München: C.H. Beck'sche Verlag)
- Siegel, Dorothy (1973), "Nonsources for Unpassives" in John P. Kimball (ed.), *Syntax and Semantics vol.2* (Tokyo: Taishukan Publishing Co.)
- 安藤貞雄 (2005), 『現代英文法講義』(東京: 開拓社)
- 小澤悦夫 (1990), 「Unpassive の意味再考」『早稲田商学』第337号